

index

2024〈第31号〉

- 医師連盟委員長挨拶
- 自民党兵庫県連各種友好団体との政策要望に係る意見交換会
- 令和6年 兵庫県医師会新年会
- 議員対談 衆議院議員 渡海紀三朗氏
- 郡市医師連盟だより (伊丹市医師連盟)

# 兵庫県医師連盟ニュース



発行所 兵庫県医師連盟  
 〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11  
 Tel 078-265-2328  
<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>  
 編集責任者 八田 昌樹

## 医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟  
 委員長 八田 昌樹

2024年になって、間もない元日の夕刻に令和6年能登半島地震が勃発しました。余震も多く、津波、火災、土砂崩れも発生し、悲惨な状況です。29年前の阪神・淡路大震災が思い起こされ、非常に胸が痛みました。1月2日には、羽田空港で日航機と被災地に向かおうとしていた海保機が衝突炎上し、海保機の5人が死亡する事故が起きました。年明け早々何とも言えない災害、事故が発生し、亡くなられた方にお悔やみ申し上げると共に被災された方にお見舞い申し上げます。JMAT兵庫も1月10日から活動を開始しています。

さて、年末に決まった令和6年度の診療報酬改定では、何とか本体部分の改定率はプラス0.88%増となりました。薬価が約マイナス1%の改定率でしたので全体としてはマイナス改定になり、決して満足できるわけではありませんが、日本医師連盟が努力した結果であります。今後も我々の政策や要望を実現するためには、推薦議員への働きかけが重要です。また、組織内候補が多数の票を獲得して当選することが非常に重要なことになってきます。1月中旬には次期参議院選挙に向けて日本医師連盟の組織内候補が決まります。我々の決めた組織内候補が多く得票を獲得して当選することが、県医師連盟、郡市区医師連盟の重要な課題です。そのためにも、医師連盟の組織率を高める必要があります。医師連盟の委員のみなさんの努力に加えて、若い研修医の先生や、勤務医の先生方にも連盟委員になってもらうように進めていきたいと存じます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 自民党兵庫県連 各種友好団体との政策要望に係る 意見交換会

令和5年9月7日(木)午後3時から県庁3号館6階の自民党県議団フロアーにおいて意見交換会が開催された。兵庫県医師連盟から八田昌樹委員長、三浦常任執行委員、杉原常任執行委員、東執行委員が出席、伊藤傑自民党健康福祉部会長、八田昌樹兵庫県医師連盟委員長の挨拶の後、令和6年度県兵庫県予算編成に対する最重点要望事項について東執行委員より説明し、実現方を強く要請した。同党からは、健康福祉部会長の伊藤傑(神戸市須磨区)並びに副部会長の戸井田祐輔(姫路市)、太田やすふみ(南あわじ市)・大前はるよ(西宮市)・水田裕一郎(姫路市)・白井かずや(三田市)・北川泰寿(西宮市)の7名の県議会議員の出席があった。

**最重点要望事項**

地域包括支援センターのヤングケアラー・若者ケアラー介入促進事業



左より八田委員長、三浦常任執行委員、東執行委員、杉原常任執行委員



東執行委員



意見交換会風景



兵庫県医師会新年会が、令和6年1月11日(木)、神戸ポートピアホテル「偕楽の間」において開催されました。今年、来賓として松本吉郎日本医師会会長、齋藤元彦兵庫県知事、橋本芳紀兵庫県歯科医師会会長、笠井秀一兵庫県薬剤師会会長、丸山美津子兵庫県看護協会会長、羽生田俊自由民主党参議院議員、兵庫県医師連盟推薦の国會議員、そして、空地頭一兵庫県医師会名誉会長、郡市区医師会会長、各医会会長、各委員会委員長等、200名の出席を賜りました。



挨拶する八田昌樹会長

三浦一樹・瓦井博子常任理事の司会のもと、まず能登半島地震の被災者の方々への哀悼の黙祷を捧げた後、鈴木克司副会長の開会の辞で新年会は始まりました。八田昌樹会長より新年の挨拶とともに2024年度診療報酬改定では、松本日本医師会会長のご尽力と医療界一体ならびに地元、国會議員のご協力により本体0.88%増の改定率になったことへの感謝を述べられました。また、能登半島地震に対してJMAT(日本医師会災害医療チーム)の派遣調整本部を設置し、10日より兵庫県薬剤師会、看護協会と協力しJMAT兵庫が被災地で活動を始め

た、と報告されました。来賓挨拶では松本日本医師会会長より、喫緊の課題である能登半島地震への支援に対して、行政と連携してJMATを派遣していく、と挨拶をされました。その後、齋藤兵庫県知事、橋本兵庫県歯科医師会会長のご挨拶の後、笠井兵庫県薬剤師会会長の乾杯のご発声で新年会が始まりました。能登半島地震のため、各宴席においては例年以上に医師会の支援活動に関する有意義な意見交換の場



本県医師連盟選出の国會議員の方々



県議会各派代表議員の方々

が多く見受けられ、最後には橋本寛副会長より新年会出席への感謝と閉会の辞をもってお開きとなりました。

医師連盟プロジェクト委員会  
委員長 北垣 幸央



兵庫県歯科医師会  
橋本芳紀会長



兵庫県医師会  
八田昌樹会長



日本医師会  
松本吉郎会長



兵庫県  
齋藤元彦知事



兵庫県薬剤師会  
笠井秀一会長

## 兵庫県医師連盟 ホームページ

医師連盟の主張や意見の広場、  
郡市区医師連盟の活動などを掲載し、  
随時内容を更新しています。

<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>



**福原委員 (以下福原)**  
 本日はお忙しい中お時間を作っていただきありがとうございます。また普段から医師連盟の活動に対して非常に御協力頂き大変感謝しております。前回のインタビューより少し日にちも空いたため、先生のこれまでの歩みから教えて頂ければと思いますので、よろしくお願います。

**渡海衆議院議員 (以下渡海)**  
 父が政治家であったということから、父の後を継いで、いわゆる二世として政治家にならせて頂きました。ただ、初めから政治家を志向していたかという点必ずしもそうではなくて、実は政治家になる前は設計事務所

で建築の設計をやっていました。どちらかというと父の政治家としての生活を見て、政治家だけにはなるまいと思っていたのですが、当時のいろんな状況がありまして。それ言ったら多分この時間では終わりません。とにかく周囲の方々の色々な説得もあり、最終的には中央の政治の関係筋から会社の方にお話しがあり、この事務所を出ることになりました。

**福原** ありがとうございます。初めは政治家になるつもりはなかったとおっしゃられましたけれども、お父様の背中を見て二世になるということはあるのだと思います。医者のごときか知らないのですが、親の背中を見てすぐ忙しそうに嫌だなと思う反面、家庭の中から見ると

会人は親であり、そこを通して社会を見ていくので、親の職業って特別なものに見えるところもあると思います。そういったところは、分野は全然違いますが似たところがあるのかなと思いました。

**渡海** そうですね。一言で言わせて頂いたら、父親の姿勢とかやっていくことをみて政治家としては父親を尊敬していました。ただ家庭人として父親はいないものと思っていて、進学する時も就職する時も結婚する時も全部自分で決めました。世の多くの親は子供に対して自分の意見を強く主張される方もいらっしゃると思います。ドクターの場合は特に、親の後を継ぐという圧力が強い場合もあると聞いております。

**福原** 直接言うことは多くないかもしれませんが、結果どうなることも多いと思います。

**渡海** 私の父親は家庭人としては、多分駄目なんでしょうね。もう何もかも母親に任せていて。ただ私も母親の言うことも聞かなくて、実は、結局姫路で大きくなりました。だから幼稚園から高校まで姫路なんです。

**福原** 幼稚園からだったんですね。



渡海紀三朗 衆議院議員

**渡海** 高校以降はこの家から姫路まで通っていましたけれど、それまでは姫路の祖父に預けられていました。おじいちゃん、おばあちゃんです。

**福原** そのようにしてお父様の背中を見て、社会人として政治家になられてから、数々のすごく重要なポストに就かれて御活躍されておりますが、その中でこんなところでこんなことがあったとか、また特徴的なものがあれば教えて頂ければと思います。

**渡海** 私はどちらかというと理系人間なので、元々0か1かで考えてきました。ところが政治というのは極端に言うと0と100の間で100以上の回答があるんですね。そこが政治家になって一番戸惑いました。元々感覚的によければやればいんじゃないか、悪ければやめたらいいじゃないかという単純な思考回路をしていましたから、それ

に悩みましたね。

**福原** なるほど。私も理系なのでよく分かります。

**渡海** その中で、半分自分の趣味みたいなことも兼ねて、できた分野が科学技術でした。政府に入ってから、科学技術行政次官、それから科学技術総括行政次官、これは今言うところの副大臣です。そして文部科学副大臣も科学技術担当で、それから文部科学大臣です。文部科学大臣では、教育、スポーツ、文化、それから科学技術の分野です。現在も、長い名前なのですが、自民党科学技術・イノベーション戦略調査会の7期目になります。

**福原** 先生が今まで力を入れて頂いたことで、日本に元々ある科学技術がさらに活かされていく社会になればいいと思いますね。

**渡海** はい。あえて自分でも自慢できることしたら、当時の科学技術の部会というのは自民党の中で一番小さな部屋でしたが、今もう二番目くらいの部屋を使ってやっていますので、随分やれるようになったなど。新しい資本主義の最初に出てくるのは科学技術イノ

ベーション政策ですから。私の科学技術・イノベーション戦略調査会の下に医療小委員会というのがありまして、その中で特にAMED(日本医療開発機構)がありまして、今はここで大きく医療に関わっていますね。

**福原** ありがとうございます。我々医師も研究に携わることも多いですから、そういった国からのバックアップがあれば、僕らの後輩やこれから医者になる志をもった人達にとって嬉しいことだと思います。

**渡海** 皆さん御承知のように日本の医療データは揃っていません。国民皆保険で、日本は最高レベルの医療をやっていますからね。そこから上がってくるデータがちゃんと集積できればいいのですが、そのDXが少し遅れている。

**福原** 医療のデータでいえば、我々加古川医師会の先輩方の取り組みとして、数十年間の検診

や登録医療機関でのデータは蓄えていますので、それをどう活かしていくか、これからのデジタル社会において皆さんにどう還元できるか、国から見れば規模は小さいですが、一つのモデルケースとして活かしていければと思います。

**渡海** そういう地域の医師会とか兵庫県医師会が一緒になって協力をして、健康医療データとか医療データを、その地域の人達の健康寿命を延ばす為はどう活かすかというのでもできるような気がすると思います。

**山下** 兵庫県医師連盟プロジェクト委員会委員 (以下山下)

**医療DXでいうと、今回のマインバーの保険証問題では現場は少し混乱しています。**

**渡海** 少し急ぎすぎたかもしれませんが、それと国民の皆様には理

解して頂くようにもう少し丁寧に説明していく必要があるかもしれません。

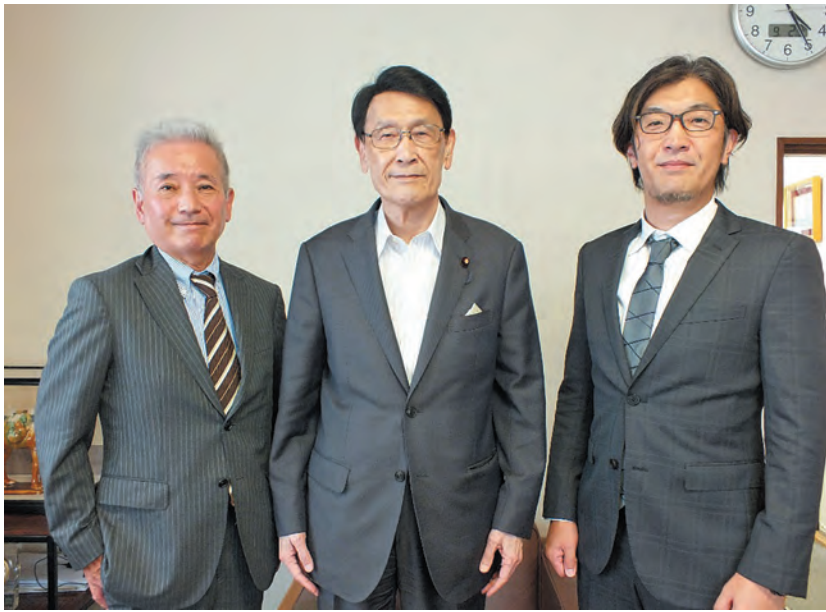
**山下** マインバーでは生まれる前のデータはないですが、日本は母子手帳を生まれる前からもらえるので、そのデータを成人まで繋げられればいいですね。また医療DXでも最初に診察後のデータをドクターが入力する場面が多いですが、アメリカなんかは全部ディクテーションで、ドクターが書くということはどうも何十年前からないです。



福原 恒 加古川医師連盟委員

です。

(四画について)



左より 山下仁司 兵庫県医師連盟プロジェクト委員会委員、  
渡海紀三朗 衆議院議員、福原 恒 加古川医師連盟委員

(三面から)  
渡海 そうですね。ですから、とにかくしゃべれば、もう終わった段階で書類ができていくというふうな機械を作り出した。内閣に戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)というものがあって、その中にAIホスピタルというものがあります。医療の分野でもAIがどんどん出てくると思います。  
福原 画像診断や病理診断から治療方針決定までAIの活用は増々現実的なものとなってきているでしょうね。  
渡海 画像診断などで、人間が見ていても機械は見過ごさな

いというものも一定のところまではあるでしょうが、最終的に判断するのはやっぱりドクターがしてもらわないと、と思います。私は人間の仕事は絶対になくならないと思って、まずAIを使わない手はないと思います。  
福原 そうですね。頑張ります。  
渡海 医療のことについて、mRNAであるコロナウイルスのワクチンについても、日本では早い段階から試験管の中で進んで進みませんでした。PMDAでの承認にも時間がかかる。  
福原 はい、私の兄も遺伝子関連の医療に携わらせて頂いておりますけど、同様のことを申し上げておりました。

渡海 この国はまだポテンシャルがものすごくあるのです。技術と知恵で勝っているのにビジネスで負けている。この不一致をどうやって埋めるかということをしっかりやれば、まだまだ日本は捨てたものではないと思います。  
福原 はい、期待をしております。  
渡海 そのためにも今回の大学ファンドのように、大学改革をやらせて頂いています。日本をやっぱりノーベル賞がいっぱい出せるような国にするためには、大学が変わらないといけないですね。日本の大学も世界の上位に入って欲しい。アジア諸国の中でも高い順位ではないですから、危機感を持って対策しないと、と思っています。そのため、GIGAスクール構想やデジタル教科書の導入なども行っています。残された仕事のうちの一つの大きなことは、この国に生まれた子供が等しくね、家庭の経済に関わらず教育を受けられる権利が得られるようなシステムを作りたいということです。これも家庭庁ができて、少子化対策が行われますが、教育が置いて行かれないように、政治の責任で繋げていかなければと思っています。

福原 是非お願いします。今日は先生の生い立ちから、これまでされてきたこと、そしてこれからの展望まで幅広く聞かせて頂きありがとうございます。  
渡海 特に科学技術のお話の中で、我々医療において明るい将来に期待が持てる内容でした。ところでそれだけ様々な取り組みをしてこれらでお忙しい中ですが、最後にご自身の趣味的な時間の使い方などのお話もご進めでしょうか。  
渡海 阪神戦を観戦するのが好きですね。テレビでも見ますが、年に2回ほど東京ドームや神宮球場へ自分でチケットを取って観戦したりもします。コンサートに出掛けることも好きですよ。安全地帯が好きで、玉置浩二のコンサートにも行きました。

# 郡市医師連盟だより

## 【伊丹市医師連盟】

伊丹市の医師連盟活動は、以前から年2回定期的に開催する医師会主催の行事に各議員を招待し懇親・意見交換を行うことを主に行っていました。  
まず夏に会員及び各病院の医師・地域医療関係者などが参加する「夏の夕べ」(ビアパーティー)、そして医師会役員(連盟役員)と主だった関係各機関

の長を招待する「新年祝賀会」です。  
ここ数年あらゆる集会在開催できず活動はストップした状態でしたが、令和4年11月に開催した当市医師会75周年記念式典をきっかけに、少しずつ対面による集会を再開し始めました。令和5年夏に数年ぶりに開催した「夏の夕べ」にも各議員を招待し、懇親を深め、意見交換を行いました。

伊丹市医師連盟は、以前から自民党議員(会派を含む)との懇親・意見交換を優先して行っており、行事へも自民党議員を優先して招待してきました。いろいろ問題のある政党であることとは否めませんが、政権を担う政党とかわりを持ち、我々の

意見を訴え政策を実現してもらうよう働きかけることが最も重要と考えており、今後この方針は変わることなく続けていきたいと考えています。

伊丹市医師連盟  
副委員長 進藤 啓



中田慎也 兵庫県議会議員



大串正樹 衆議院議員



左より 吉村史郎 委員長、末松信介 参議院議員、  
大串正樹 衆議院議員、進藤 啓 副委員長



末松信介 参議院議員